

Op.2

夢想

人びとの 体を運ぶ あの電車
目的地 エスカレーター 並ぶ列
片側を空けて待つか 急いでゆくか
踏切の下がる鐘の音 忙しく響き

魂の運ばれ下ろされ 揺れる籠
最終点 自動の階段 見えぬ天
片側で忙しく運ばれ 消えゆく命
鐘の音の告げる到来 鉄の棺桶

Op.3

鎮魂

踏切の 機械の鳴らす鐘の音
赤染みつけて 横切る電車

遙か西 機械の響かす滝の音
気体と化して 火花の無数

Op.4

欺瞞

夜の薄絹
街の灯り
隠された影

夜の綴帳
目蓋の裏
明日 欺瞞

Op.5

街

信号の 代わる代わるに 赤緑
しゃじん
車人の映す 跡十字

つつじ落ち 代わる代わるに 緑赤
花待ち廻す 時の齒車

Op.6

希望

梅雨空に 昼夕夜と まだら模様
混じって垂れて 虹の筆水

夜の木に 数多の蝙蝠 白い奇声
互いに掻き消す 身体の在りか

さす傘に 落ちて弾けて 雨の粒
つながり落ちて 鳴る雨音

Op.7

灯り

日の灯り 線路のつなぎ目 浮かばせて
身体を求める ふた腕代わり

蛍光灯 線路のつなぎ目 こだまして
日除けの向こう 街の幻

前照灯 線路のつなぎ目 可視化して
動かぬ景色 街の逆行

Op.8

紫陽花

白の視線

薄まる生气

紫陽の花

うすあかがね うすころも

薄 銅の薄衣

仮初の装束

燃える沈黙

黒の溜まり水

輪郭の揺らぎ

残された片割れ

Op.9

犍陀多（カンダタ）

犍陀多の チリトリ^{すく}掬う大ムカデ
秩序の世界 居場所なく

大岩で 頭と足^{かくま}を匿って
カラダと同色 赤と黄も

切れた数珠 カラダの糸の伸び縮み
昼間の色々 在る証明

切れた数珠 カラダの糸の伸び縮み
夜間の面々 闇の一族

灰色の硬い布団にムカデのカラダ
潰れて飛び出る 無垢の液

健陀多の イノチ救う大ムカデ

秩序の世界 切れた数珠糸

Op.10

ふた模様

梅の雨 黒い薄布 照れ隠し
溜まる地の熱 上気 ふた頬

梅の雨 白い油膜 濡れ弾け
二度跳ね揚がる 冷めたテンブラ

Op.11

白日と月光

真夏の白日

無慈悲な裁き手

忌み嫌う曖昧

至上のリアリズム

灰色のアスファルト

揺らぐ無像の蜃気楼

行き交う細長い人影

代わる代わるに舞台袖

真夏の月光

慈悲深き許し手

太陽の冷静な片思い

受け止め返す古鏡

漆黒のアスファルト

敷かれる黒の薄絨毯

足音たちの多重奏

順に脱がれる舞踏靴

白日と月光の恋
仲取り持たぬ天の川
粉々に碎けるラムネ瓶
ダンプの下ろす砂利の音

Op.12

再生

艶もなく館に集う娼婦たち
時間を売って 生き永らえる

黒い蛾の地面に落ちて黒こより
風に吹かれて 濡れ落ち葉

電車の窓に映る顔
生気のない両の瞳

電車の窓に映る顔
白くて黒い両の頬

窓枠の中の動かぬ像
ただ見られるだけの遺影

遺影に光る街々の影
ただ流れるだけの走馬灯

街灯の黒い蛾誘う 似非の月
ふた羽に浮かぶ 真夏の枯葉

夜の天に穴開き滴る黄の光
舌で味わう 生命の口淫

Op.13

川面

音もなく 水面きらめく 黒い川
愛求め さすらう螢 点々と
愛を受け 女の瞳 白く濡れ

音もなく 水底見せる みどり川
水求め しおれる草木 鬱蒼と
水枯れて 女の睫毛 黒く濡れ

Op.14

風

風を知らせて 蟬の転生
地下で紡いで 愛の調べ
途惑う乙女 その愛撫にも似て
真夏に溶けて 歪んだ輪郭

風を知らせて 雲のゆくえ
頭上を巡って 礼拝堂の天井画
微笑む聖女 その醒睡にも似て
地上に堕ちて 愛の歌い手

風を知らせて 葉々の揺れ
木の枝つかんで 最初の抜け殻
嘲ける悪女 その屈折にも似て
野良猫さらって 最期の抜け殻

Op.15

土壌

赤紫の花の咲く
白い柵の向こうの庭園
恵みの放水 日課の水浴び
試練の脱衣 日課の日浴び

赤紫の花の咲く
灰色のアスファルトの裂け目
恵みの放水 水のお零れ
試練の脱衣 影の正夢

黄緑色の草生える
灰色のアスファルトの裂け目
恵みの放水 届かぬ水滴
試練の脱衣 靴裏の影

Op.16

ひととせの夢

いつか見た夢

春の陽射しの水に溶け

耳に流れる生命の胎動

いつか見た夢

夏の夜空の打ち上げ花火

耳にこだます戦火の空砲

いつか見た夢

秋の銀杏の匂う敷き毛布

耳に笛吹く先取りの乾風からかぜ

いつか見た夢

冬の夜明けの白い月

耳に聞こえる貝殻の記憶

Op.17

夏の光

夏の曙光の橙に
染まる光の陰黒く
人みな隠す自身の幻影

夏の白光の輪郭に
生まれる光の陰厚く
人みな愛すガラスの縁塩ふちしお

夏の夜光の灰色に
埋める光の闇暗く
人みな求む街灯の蜘蛛

Op.18

屈折

幾万年の時を越え
幾億年の時を越え
永遠の刹那の連鎖
有限の光の軌跡

星疎らに街の夜空
濁りの向こうの夢
写真に宿って点の今
映像の記して点の今

無数の銀の鉄屑
天蓋を擦る銀の鉄屑
流れのない銀の河
発光体の集合体

Op.19

こよみ

朝の風 軽さ感じて 古こよみ
雲の被せて 薄陰の日傘

昼の壁 厚さ感じて 新こよみ
蒼天浸して 氷と練乳

夜の風 柔さ感じて 古こよみ
月のみ照って 先取る夜空

Op.20

遡行

灰色の雲の向こう

冷たく燃える夏の黄色

冷やされ滲む夏の青色

破れて漏れる夏の藍色

弾けて溜まる夏の黒色

灰色の雲の向こう

燃えて灼ける風の海

照らし震える風の海

灰色の雲の向こう

どこまでも輝く太陽

どこまでも輝き弾く月